

問 1. 大航海時代

ア ブラジルに漂着し、ポルトガル領したのは[1. カブラル ]

※バルボアはパナマ地峡を横断し、[2. 太平洋 ]に到達した。

イ アステカ王国を滅亡させたのは[3. コルテス ]。ピサロが滅ぼしたのは[4. インカ帝国 ]。





ウ スペイン王カルロス 1 世(皇帝カール 5 世)の支援を受けたポルトガル人[5. マゼラン ]はフィリピンに到達。

エ バルトロメウ=ディアスが到達したのは[6. 喜望峰 ]。

※カリカットに到達したのは[7. バスコ=ダ=ガマ ]。

17 世紀のバロック絵画

問 2. イタリア=ルネサンス期の絵画

最後の審判 [8. <u>ミケランジェロ</u> ]	レウキッポスの娘たちの略奪 [9. <u>ルーベンス</u> ]
	
最後の晩餐 [10. <u>レオナルド=ダ=ヴィンチ</u> ]	聖母子と幼児ヨハネ [11. <u>ラファエロ</u> ]
	

問 3 一問一答

・『ガルガンチュアとパンタグリユエルの物語』を著し、当時の社会的因習を風刺したフランスの作家は誰か。  
 →[12. ラブレー ]

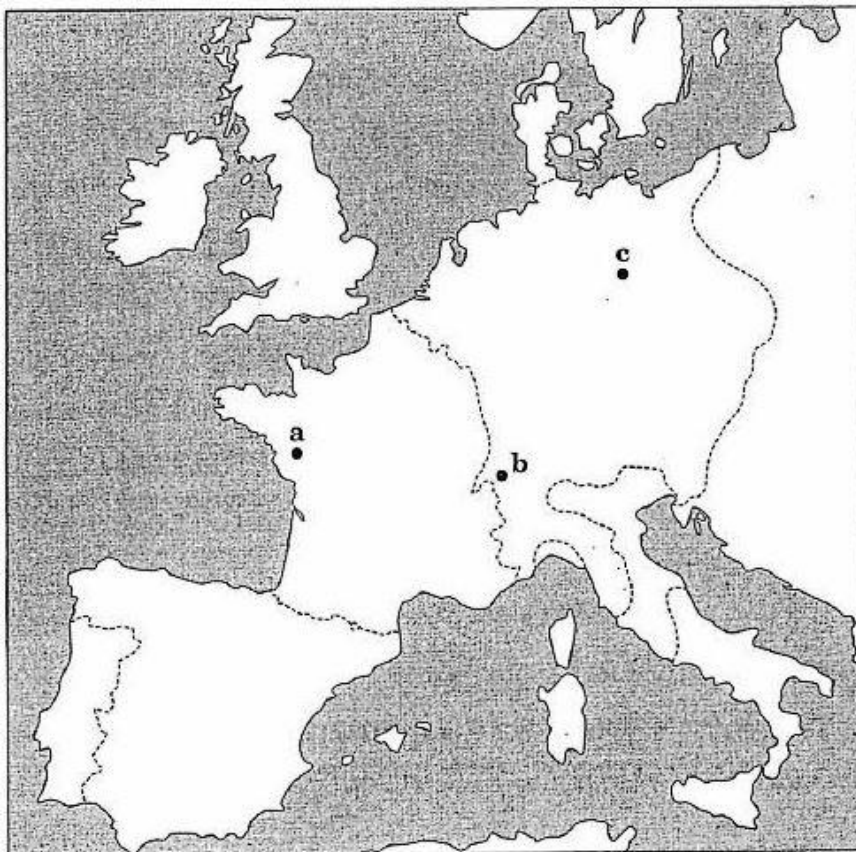
☆ルネサンス期の作家と作品

ダンテ	イタリア	少女ベアトリチェに生涯にわたる精神的な恋を抱き、それを宗教的に高めて『新生』や『13. 神曲』を描く。永遠の少女への愛が人間の魂を浄化。
14. ペトラルカ	イタリア	『抒情詩集』永遠の恋人ラウラへの愛を、言葉の持つ美しい音楽的な響きを生かした流麗な格調で歌い、近代的な恋愛感情を新鮮に表現した。
15. ボッカチオ	イタリア	デカメロンとは「十日」のこと。ペストの流行を逃れてフィレンツェ郊外の別荘にこもった10人の若い男女が毎日1つのテーマで10日間するという筋立て。肉欲の解放などルネサンス精神に溢れている。 ▶3日目第10話「地獄へ悪魔を入れるはなし」
16. エラスムス	ネーデルラント	『痴愚神札賛』聖書や文芸の研究。当時の王侯貴族や司祭を熱烈に批判。
モンテーニュ	フランス	『17. 随想録』ユグノー戦争の混乱のなかで、自己をみつめ、人間性を追求して中庸の精神を説いた。
18. セルバンテス	スペイン	『ドン=キホーテ』没落騎士を風刺しスペイン社会の矛盾を表現。レパントの海戦で負傷し、捕虜となる。
チャーサー	イギリス	『19. カンタベリ物語』。デカメロンの影響を受ける。
20. トマス=モア	イギリス	『ユートピア』。「羊が人間を食う」と第一次囲い込みを批判。

問4 「九十五カ条の論題」におけるルターの批判点

・[21. 贖宥状販売]の批判までは誰しもが思いつくが、レオ10世が新築しようとしていた教会の名称を答えられるかがポイント。 →[22. サン=ピエトロ大聖堂]の資金調達のため。

問5 カルヴァンが宗教改革を行った都市を答えよ。



a.[23. ナント]

▶1598年に仏王アンリ4世がナントの勅令を發布した都市。新教徒のアンリ4世が旧教徒に改宗すると共に、新教徒に旧教徒とほぼ同等の権利を与え、ユグノー戦争に終止符を打った。

b.[24. ジュネーヴ]

▶カルヴァンが宗教改革の拠点としたのはスイスのジュネーヴなのでbが征討となる。

c.[25. ヴィッテンベルク]

▶ルターが神学教授をしていた大学の所在地。「九十五カ条の論題」を発表した都市でもある。

問6 17世紀の危機

①17世紀のヨーロッパ経済は、対外進出が止まり、人口や貿易も規模がむしろ小さくなりはじめたうえ、物価も下降線を描き、典型的な「縮小」ないし「下降」の局面に入った。

②こうした経済的危機は社会不安をもたらし、社会不安は政治不安につながり、イギリスのピューリタン革命やフランスの[26. フロンドの乱]など多くの革命や反乱をもたらした。これが全体として「ヨーロッパの全般的危機」と呼ばれている現象である。

■選択肢ア ルターの宗教改革(1517)に影響され、教会や諸侯の収奪に対抗して[27. ミュンツァー]に率いられて反乱。よってドイツの宗教改革の時期なので16世紀と分かる。

■選択肢イ アルマダ海戦は[28. フェリペ2世]が対立していたイギリスと起こした戦争。「無敵艦隊以後パッパと散る(1588)」と覚えても良いが、カール5世のハプスブルク帝国分裂後のスペイン継承者がフェリペだと気づけば16世紀だと分かる。

☆フェリペ2世の挙兵理由

- ①イギリスの宗教問題:フェリペ2世の妻はイングランド女王[29. メアリ1世]であり、メアリが死ぬまで共同統治者であったフェリペは国教会を主導するエリザベス女王に対して不満を抱いていた。
- ②海賊行為:エリザベス1世はスペインと新大陸との交易船を、[30. ドレーク]ら海賊の私掠船で略奪していた。
- ③[31. オランダ独立戦争]:新教を支援するイギリスがスペインと敵対するネーデルラントを支援。

■選択肢ウ オランダ独立戦争は厳格なカトリックであったフェリペ2世が[32. 対抗宗教改革]を強行した結果起こった戦争なので16世紀だと分かる。ネーデルラントの南部は脱落したが、北部はユトレヒト同盟を結んで独立を達成した。

問7. ドイツ三十年戦争とフランス

①ハプスブルク家に打撃を与えるために旧教国にもかかわらず新教側で参戦したのがルイ13世の宰相[32. リシュリユー]。

②リシュリユー没後、三十年戦争の講和条約であるウェストファリア条約でアルザスを獲得したのが、ルイ14世の宰相[33. マザラン]。

シュリー	リシュリユー	マザラン
		
[34. アンリ4世]の宰相	[35. ルイ13世]の宰相	[36. ルイ14世]の宰相
「牧畜と農耕はフランスを養う二つの乳房」と唱え農業の振興に力を注ぐ。	ハプスブルク家を抑えてフランス優位の体制を作るため三十年戦争に介入。	ウェストファリア条約ではアルザスを獲得し、フロンドの乱で貴族勢力を一掃。

問 8. ウェストファリア条約(1648) ～三十年戦争の講和条約～

①新教側に参戦したスウェーデン・フランスが勢力を拡大。

- ・スウェーデン：バルト海沿岸一帯に領土を得て制海権を確立。
- ・フランス：リシュリュー没後、ルイ 14 世の宰相マザランが[37. アルザス]を獲得。

②旧教側のハプスブルク家が権威失墜・領土縮小

- ・オーストリア・ハプスブルク家の支配に 200 年間独立運動を展開した[38. スイス]の独立を国際的に承認。
- ・スペイン・ハプスブルク家の支配に独立戦争を起こしていた[39. オランダ]の独立を国際的に承認。

③神聖ローマ帝国に属する領邦国家・帝国都市の主権を承認。

☆[40. 主権国家体制]の成立。

- ・主権とは領域内における統治権のことなので、主権の承認とは独立国家に等しい。ハプスブルク家が帝位を世襲してきた神聖ローマ帝国は完全に有名無実化。
  - ・国境で明確に区分された領域の統治権を持つ国家が、対外的に独立している「最高独立性」という特徴を持つ主権国家体制が成立。
- ※以前は国家よりも上位概念として教皇権や皇帝権が存在していた。

④アウクスブルクの宗教和議を再確認したうえで、カルヴァン派も公認。

- ・[41. 領邦教会制]…諸侯・都市に旧教・新教の選択権を与え、個人の信仰の自由は認めない。
- ※設問には「領主の宗教がその地の宗教」と規定したと書かれているので、アウクスブルクの宗教和議の領邦教会制を指していることが分かる。

問 9. クロムウェルの業績

1643 [42. 鉄騎隊]を編成 → 1645 ネーズビーの戦いで王党派軍を破る。

1648 独立派のクロムウェル、国王と妥協的な[43. 長老派]議員を追放  
Cf.のち、財産権と参政権の平等を求める[44. 水平派]も弾圧した。

1649 [45. チャールズ 1 世]を処刑 → 共和政成立

〃 王党派の拠点である[46. アイルランド]を征服し農民の土地を没収

1650 [47. スコットランド]征服

1651 [48. 航海法]成立…イギリスの貿易港への第三国への商船(事実上、オランダ船)の寄港を禁止。  
オランダによる中継貿易を打破。

1652 [49. 英蘭戦争]勃発を契機に議会を解散して翌年[50. 護国卿]に就任して独裁(~58)

問 10. イギリスの政党

○クロムウェル没後、王政復古。だが即位した[51. チャールズ 2 世]はカトリックだった。

次王の[52. ジェームズ 2 世]もカトリックだったため即位をめぐって議会で対立が起こる。

- ・[53. ホイッグ党]…ジェームズ 2 世の即位を認めず、議会の権利を主張。即位賛成派から「スコットランドの謀反人」とあだ名をつけられたのでそれを意味する「ホイッグ」と名乗る。スコットランドは新教だったので、カトリックの王に謀反するとの意味。  
※のちに[54. 自由党]となる。

- ・[55. トーリー党]…ジェームズ 2 世の即位賛成派。国王大権を尊重する。即位反対派から「アイルランドの無法者」のあだ名をつけられたので、それを政党名にする。ジェームズ 2 世がカトリックであったことから、カトリックの多いアイルランド人が無法をおかしているとの意味。

※のちに[56. 保守党]となる。